

「釧路湿原自然再生協議会」

第 8 回 旧川復元小委員会

資 料

平成 18 年 9 月 15 日

釧路湿原自然再生協議会事務局

釧路湿原自然再生協議会
第8回 旧川復元小委員会

日時：平成 18 年 9 月 15 日（金） 13:30～15:30
場所：釧路地方合同庁舎 5 階 共用第 1 会議室

議 事 次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 事業実施に向けた考え方について
 - 2) 自然環境への配慮事項について（移植について）
 - 3) 今後の予定について
3. その他
4. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会
旧川復元小委員会 委員名簿

計:28名

■個人(10名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	内島 邦秀	北見工業大学 工学部 教授
2	大山 仁美	環境カウンセラー(事業者部門)
3	桂川 雅信	北海道教育大学札幌校 非常勤講師 環境カウンセラー(市民部門)
4	神田 房行	北海道教育大学 副学長(釧路校担当)
5	木村 勲	
6	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究科 教授
7	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
8	針生 勤	釧路市博物館 館長補佐
9	日野 貴	
10	松本 文雄	

■団体(10名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 濱 隆司
2	釧路自然保護協会	会長 高山末吉
3	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山口 功
4	釧路シャケの会	会長 林田 恒夫
5	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	顧問 濱 隆司
6	釧路生物談話会	代表 須摩 靖彦
7	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
8	下久著呂地区農業用排水維持管理組合	組合長 八木沢 栄蔵
9	タンチョウ保護調査連合	代表 正富 宏之
10	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒沢 信道

■オブザーバー(4団体)

(敬称略)

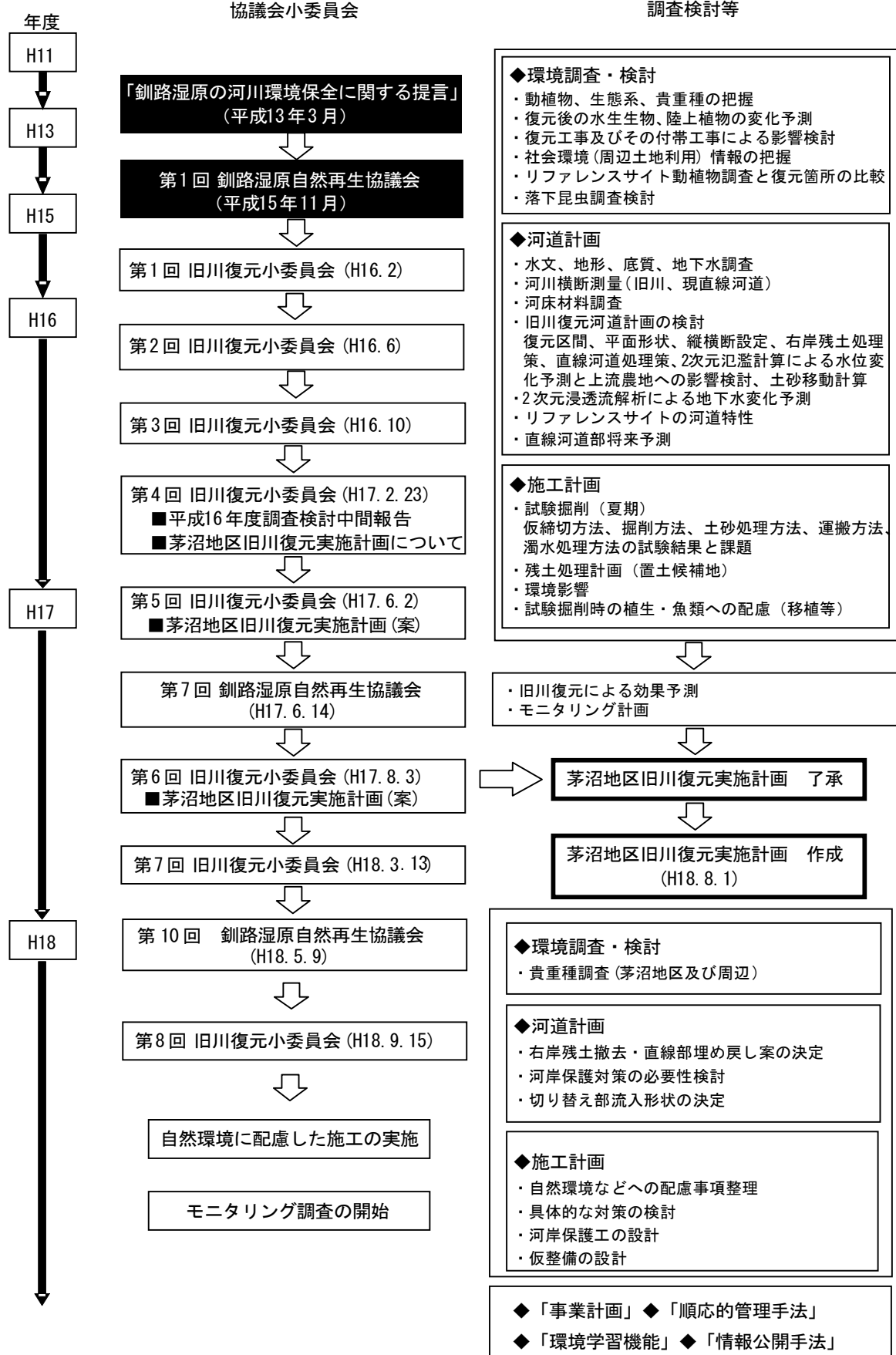
No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 小嶋 孝
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 植田 晃雄
4	標茶町商工会	会長 栗田 和行

■関係行政機関(4機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 松浦 壽彦
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 渋谷 晃太郎
3	標茶町	町長
4	鶴居村	村長 日野浦 正志

旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画



議事概要と今後の対応方針～第7回旧川復元小委員会

項目	議事概要	「回答」および今後の対応方針(案)
植物の移植について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移植によって新たな破壊が起きないように慎重に考えて欲しい。 ・ 移植候補地は、既に破壊されている環境を利用するのであればわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回小委員会で協議
JR 接近箇所の河岸保護について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河岸保護については、多自然型にしたから良いというよりは、今現在あるものを極力残すという選択肢の中で考えるべきだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を踏まえ、検討を行っていききたい。
河道断面および河岸保護について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧川は、一番安定した形状を求めるが、急激な土砂流出にはならないので、河岸を固める必要はないと思う。 ・ 開発局が現場を監督し、時には生物系の専門家などに参加してもらい、設計断面の考え方を施工者に伝えるような方法を取ってほしい。 ・ JR の接近箇所や合流部等の蛇行部は、洪水時に内岸側を流れる現象が起きる。リファレンスサイトの下流でも発生しており、痕跡が見えるので参考にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を踏まえ、今後の河道断面詳細検討を行っていききたい。
魚類の移動について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直線河道を一部残して止水域をつくり、生物を守っていくことも十分可能だと思う。そうすれば、新たに移植場所をつくる必要はないので、湿原を破壊しなくて済むということに繋がっていくと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を踏まえ、検討を行っていききたい。
倒木・沈木について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沈んでいる木についても、様々な機能を持っていることは明らかなので、是非とも残す方向で考えてほしい。取り除いたものは、リハビリテーション的にどこかに使うことも考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最低限支障となるものについては撤去するが、水位計算など実施しながら沈木の存置や設置を検討していききたい。